

議事要旨

地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 (第 25 期・第 9 回)

日 時：令和 5 年 3 月 1 4 日 (火) 14:00~16:00

会 場：遠隔会議 (ZOOM)

座長：西弘嗣 (委員長)、書記：掛川武

参加者：大久保泰邦 (副委員長)、堀利栄、奥村晃史、齋藤文紀、木村学、中田節也、益田晴恵、北里洋 (特任)

欠席：阿部綾子、谷口直人、佃栄吉

オブザーバー：Simon Wallis (地質学会)、岡田誠 (地質学会) 中尾信典 (産総研)、中澤努 (産総研)、井龍康文 (地質学会)、石塚吉浩 (産総研)、河野武 (JAMSTEC)、南雅代 (地球化学会)

(1) 国際地質科学連合理事会報告 (北里委員から報告)

報告事項は下記のとおりである。

- 理事会が 2 月 13-17 日に北アイルランドのベルファーストで開催された。

28 カ国約 60 名がオンサイトとオンラインで参加。ロシアによるウクライナ

侵攻のため、次回の韓国 IGC ではロシアからの参加者に関しては、個人レ

ベルでの参加は問題視しないが、国の代表としては拒否する見込みであるこ

とが紹介された。次回 IGC はオーストラリア、カナダ、イギリスが候補として上がっている。今後の IUGS の開催に関しては、領土問題等が発生しないように候補国を判断する必要性があることも議論された。

- Marine Geohazard に関するタスクグループ (Task Group on Submarine Geohazard: TGSG, 代表 ; Kiichiro Kawamura, Yamaguchi University) が承認された (大久保委員説明)。
- Geoethics Commission も新たに立ち上がり (ジェンダー問題などに対応)、Commission 委員の一人として堀委員を推薦した。
- 新たにアウトリーチ委員会を設置した。今後 SNS を活用した発信を積極的に行う。
- 今後の活動として、国連基礎科学年を契機に IUGS でも社会とつながるプログラムを積極的に推進する方針が紹介された。
- 第 36 回 IGC の参加費返却問題は IUGS が返金作業を引き継いでいる。
- Geo-heritage は全世界で First 100 Geo-heritage sites を決めた。サイトを紹介した本でも出版された。日本から玄武洞、野島断層が選出された (中田委員説明)。次の応募の準備も進めている。

- IUGS の日本から推薦する次回理事候補に関して女性候補を立てる方向で意見交換を行った。
- 一部に IUGG と IUGS を合体させる動きがある。

(2) IUGS 関係の小委員会継続に関して

ほとんど開催されていない小委員会に関しては、学術会議の当局から見直しの指摘が意見交換を行った。分科会の中に小委員会の分野代表が含まれていれば(オブザーバーを含む)、対処は可能ではとの意見も出された。

(3) 次年度の活動方針

IUGS での新しいタスクフォースを含めた活動が必要。IUGS に関する公開シンポジウムの開催、提言を出すかについては今後の問題として残っている。次の分科会で議論する予定である。

(4) IGC 韓国大会

First Circular では竹島巡検には触れられておらず、East Sea の記述はみられな

い。地質学会、海洋研究開発機構（JAMSTEC）、産業技術総合研究所（AIST）に韓国側から改めて公式の文書が送られてきた。今後の対応の仕方に関して意見交換を行ったが、今までの交渉の経緯もあり、Second circular の内容も注視する必要がある。IUGS 分科会としてメッセージを作成することにした。